

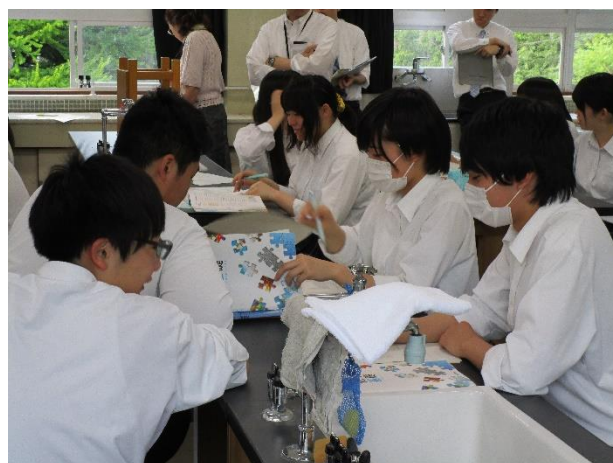
研究推進委員会通信

平成 30 年 6 月 7 日

6 月 4 日（月曜日）に第 1 回授業研究会を実施しました。本授業研究会を実施するにあたり助言者として、岐阜大学教職大学院の棚野勝文教授をお招きしました。また、白鳥中学校の校長先生、白鳥小学校の教頭先生が参加してくださいました。

授業参観では昨年度の検討事項だった「俯瞰的な見方」の解消のために、生徒の発言の変容を確認してもらうように声かけをさせていただきました。今回の研究授業でも、生徒から「なるほど」や「なんで？」というつぶやきがたくさん聞こえてきました。生徒が活動的に学習することがアクティブラーニングではなく、思考を働かせることがアクティブラーニングだと言われています。今回、使用された ICT 機器（プロジェクター・書画カメラ）は、授業を実施するためのツールでしかありません。ぜひ、伊藤先生のように、思考を働かせるための材料（資料の提示等）として使用していただけるようにチャレンジしてみてください。

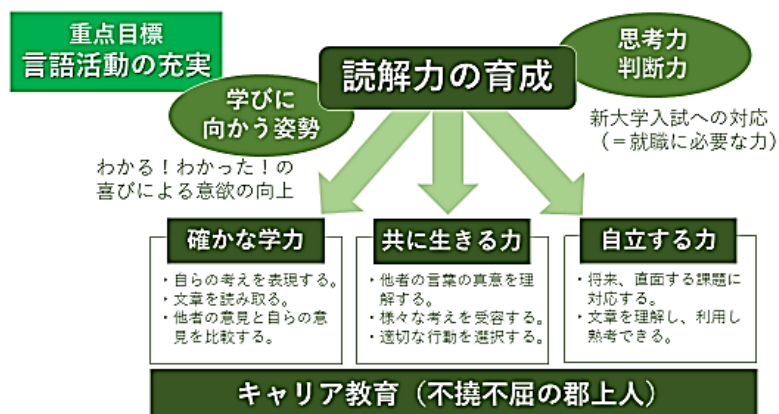
※使用方法が分からない場合は熊崎が伺います！



棚野勝文教授からは「教員が学び続ける必要がある理由」をお話ししていただきました。AI の浸透、さらなる高齢化などこれから誰も体験したことが無い未知の社会を生きていくためには、教員が新しい指導方法を協働的に学んでいく必要があります。「人生 100 年時代」と言われる社会（11 歳の子どもは 100 歳以上まで生きるのは 7 割超とのこと）を生き抜く力を育成するために、何が求められるのかを高いアンテナを立てながら学び合う必要があるとのことです。また、高等学校における授業研究会が実施できるのは稀なケース

だということで、これからも継続して実施していくと良いとの助言をいただきました。

今年度の「読解力」という研究テーマに関しては、1つのテーマにしぼることで「一点突破・全面展開」が可能とのことでした。今年度の研究構想図では、読解力が中高連携の目標である「確かな学力」「共に生きる力」「自立する力」につながると示しています。ぜひ研究構想図を読み込みながら授業改善を進めていただけると嬉しいです。



ご自身の授業で取り入れたいと感じたこと（授業の手法等）はどのようなことですか

- ・生徒に考えさせる手だて、順序立て。
- ・プロジェクタの利用。
- ・視覚から読み取れる授業展開。
- ・プロジェクタと黒板を合わせて授業する。
- ・グループワークや作業的活動を取り入れる。
- ・生徒の発言の要約。
- ・生徒自身が考える時間を多くとりたい。
- ・具体例を身近なものへ。



授業改善のために取り組んでいること

- ・生徒が主体的に学ぶ授業の実施。
- ・生徒が茫然としないようにするため、反応を求めたり会話をさせたりする。
- ・肯定的な言葉かけを意識している。
- ・板書を分かりやすくしている。
- ・評価の可視化。
- ・対話。
- ・授業を見学して、自分の指導方法を見直している。

※省察（リフレクション）は今後、教員に求められるとされています。

授業改善のために必要なものはありますか。

- ・雰囲気づくり。
- ・教材研究（分野を熟知しなければ発想も広げることができない）。
- ・授業実践の例が欲しいです。
- ・高校としての目標、ゴール